

トガリバメシダは葉の細長い變種にして、學名を *A. solutum* Ros. var. *acutissimum* (Kodama) Tagawa と改める。

(79) 濟州島のヒメカラクサシダをコバノヒノキシダの變種にして、學名を *Asplenium Sarelui* Hook. var. *anogrammoides* (Christ) Tagawa と改める。

(80) オホアヲガネシダをアヲガネシダの變種にして學名を *Asplenium Wilfordii* Mett. var. *austrorhynchense* (Ching) Tagawa と改める。

○イヌケホシダ九州に産す (倉田悟・瀧一郎) Satoru KURATA & Ichirō TAKI: *Cyclosorus oblancifolius* Tagawa, new to Japan (Kyūshū).

數年來、瀧は宮崎縣の羊齒類を調査研究しているが、前々から疑問に思っていた兒湯郡三納村に自生する一羊齒はイヌケホシダである事が明らかになった。本種は從來臺灣及びミクロネシアから報ぜられていたもので、此度ずつと北方迄分布範圍を広げた譯である。また、大阪の瀬戸剛・兒玉務兩氏から、昨夏和歌山縣で採集された本種に極めて近似的の羊齒標本 (或は葉柄基部の鱗片が異なるか?) を頂いたが、兩氏の精細な御發表を期待する次第である。

なお、上記三納村にはホコガタシダ、スジヒトツバ、ホオノカワシダ、アミシダ、オトコシダ、クサマルハチ、リュウウビンタイ、シロヤマゼンマイ等多數の注目すべき羊齒が自生している。(東大農學部及び宮崎縣小林第一中學校)

Cyclosorus oblancifolius Tagawa in Acta Phytotax. Geobot. 5: 190 (1936) ut nom. altern.; H. Itō in Bot. Mag. Tokyo 51: 725 (1937); in Nakai et Honda, Nova Fl. Jap. 4: 175 (1939).

Hab. Kyūshū. Prov. Hyūga: Koyu-gun, Minō-mura (I. Taki, April 1952)
—Distr. Formosa, Micronesia. New to Japan.

○シロバナイナモリソウ三浦半島に産す (久内清孝) Kiyotaka HISAUCHI: A new locality of *Pseudopyxis heterophylla* Max.

三浦半島の中部には植物の分布上意外なことが往々ある。即ち先年榎山泰一氏が發見したマネキグサやカワミドリ、また近年大谷茂氏を中心とする一團により見出されたコウヤノマンネングサの如き山地分子の存在はその例である。更に横須賀に近い安針塚附近から北村泰子氏によりシロバナイナモリソウ *Pseudopyxis heterophylla* Max. が發見された。これも山地分子で箱根や相模大山に知られているものである。(東邦大學)

○新 刊

細川隆英: 生物の分類と生態. 222 pp. 研究社 ¥ 130

日本植物學會編 (編集委員伊藤洋): 植物學の概観 (1940—1945). 95 pp. 日本學術振興會發行丸善 ¥ 150 (戰時中の日本の學者、研究機關の活動及び業績を紹介した。但し細胞學關係は遺傳學會にゆずる。)